

令和2年度第2回大学リーグやまぐち全体会議 議事録

1 日時等

日 時：令和3年3月25日（木）14時～15時

場 所：県庁4階 正庁会議室

2 議 題

・大学リーグやまぐち 令和3年度収支予算(案)及び事業計画(案)

→ 全会一致で承認された。

【質疑応答】

◇ 徳山工業高等専門学校（勇校長）

新たに正会員となったが、県内進学・魅力向上部会のオープンキャンパスマップ・進学ガイドブックにおける高等専門学校の対応をどのように考えられているのか。専攻科もあり、デジタルでの対応や、中学3年生への配布についても検討いただきたい。

◇ 事務局（県学事文書課長）

オープンキャンパスマップ及び進学ガイドブックについては、高校生を対象としているため、中学生が主な対象となる高等専門学校についてはどのような対応ができるか、掲載する場合にはその費用負担も含め、事務局で検討させていただきます。

3 意見交換

(1) テーマ

県内の産業界におけるデジタル人材のニーズ、大学等におけるデジタル人材育成の現状と今後の見通しなどを踏まえた、デジタル人材の育成に向けた産学公の連携方策などの今後の取組の在り方について

(2) 概要

◇ 村岡特別顧問

地方におけるデジタル化は、少子化や人口減少が進展する中であって、これからの成長につながる原動力となることから、県では、新たに「やまぐちデジタル改革基本方針」を策定し、来年度予算により、DXを全県的に推進するための諸施策を進めていくこととしている。

一方で、経済産業省の調査等では、将来的にIT人材が不足するとの指摘もあり、全国知事会においても地方での人材確保は大きな課題として、その対応を国に対し要望しているところである。

本県におけるデジタル改革を進めていくには、企業や大学など多様な主体が連携・協力し、それぞれが持つ知見やノウハウ、アイデアを結集して、人

材の育成・確保を図っていく必要がある。

デジタル人材の育成・確保に向けては、県内高等教育機関の役割が非常に大きく、その取組に大いに期待しているところであり、県内の産業界におけるデジタル人材へのニーズや、大学等における育成の現状と今後の見通しなどを伺うとともに、デジタル人材の育成等に関する産学公の連携方策など、今後の取組の在り方についても、皆様方の御意見をいただければと思う。

◇ 岡会長

村岡特別顧問から、「デジタル人材の育成・確保」に向けた、産業界のニーズや大学等における現状と今後の見通し、産学公の連携方策などについて御意見を伺いたいとの話があった。

はじめに、データサイエンティストなどの高度産業人材の育成支援等を行っている、やまぐち産業振興財団の阿野副理事長から、県内企業におけるデジタル人材のニーズや育成における現状・課題について、御紹介いただきたい。

◇ やまぐち産業振興財団（阿野副理事長）

デジタル人材の育成・確保は、企業の生産性向上や労働力不足の解消に必要不可欠であることから、当財団は、数年前から県内中小企業全般を対象とした普及啓発セミナーや、個別の企業の従業員を対象とした社内データサイエンティストの育成研修に取り組み始めたところである。

それらの取組等から、デジタル化を推進して生産性向上や新サービスの展開に取り組んでいきたいという前向きな姿勢や、社内のデジタル化は必須であるという認識は高まりつつあるが、企業の規模や業種によってニーズ等がまちまちであり、中小企業全体に総じて人材不足、知識不足、それらに起因する社内の取組体制の構築の遅れといった共通した課題が見えてきたところである。

当財団としては、新年度以降、県とも連携・協力して中小企業のDX化の加速的拡大を図るため、フェーズに応じた切れ目ない支援を展開することとしている。

しかしながら、人材の社内育成には様々な課題があり、企業は即戦力となる人材を強く求めているので、大学リーグにおいて県内高等教育機関が連携してデータサイエンス教育を進めることが、県内企業への多くのデジタル人材の輩出に繋がることを期待している。

◇ 岡会長

続いては、文部科学省の「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソー

シム」の連携校である山口学芸大学の三池学長から、連携校としての活動状況や今後の展望、学内でのデータサイエンス教育の現状や課題について、御説明いただきたい。

◇ 山口学芸大学・山口芸術短期大学（三池学長）

AI戦略2019における2025年度の育成目標に向けて、今年度、リテラシーレベルのモデルカリキュラムが公表され、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定制度に基づく募集が開始されている。申請の締め切りは5月で、山口大学でも申請を準備されていると聞いており、その後、連携している応用基礎レベルの教育プログラムについても募集が開始される予定となっている。

数理・データサイエンス・AI教育の全国展開に向けては、6大学の拠点校を中心に、協力校、特定分野協力校、連携校で体制が構築されており、本学は中国・四国ブロックの連携校として参画している。最近では、大阪大学主催により数理・データ教育研究会が開催され、意見交換等を実施したところである。

本学は教育学部であるため、データサイエンス教育カリキュラムを多くは実施できないが、1年から4年まで1科目ずつ設定しており、大学院では少し高度なものをやっていきたいと考える。

◇ 岡会長

続いては、本年2月に宇部市及び山口大学工学部とデジタル人材の育成を連携・協力して取り組むための協定を締結された宇部工業高等専門学校の山川校長に、宇部市との取組の状況を御紹介いただき、今後の進め方や課題についても御説明いただきたい。

◇ 宇部工業高等専門学校（山川校長）

先月8日に山口大学工学部と宇部市、本校の3者によるデジタル人材の育成等に関する協定を締結させていただいた。この協定は、デジタル技術を活用して地域課題を解決し、新たな分野を切り開く人材やデジタル技術の楽しさを多世代に伝えられる人材の育成等を目的としている。

具体的には来年度から、山口大学工学部が宇部市と連携して、一般の方も参加できる「ワクワク未来デジタル講座」を開設することとしている。

本校としては、学生にこの講座を授業の一環として受講させるとともに、山口大学と協力して、小中学校に出向いてプログラミング等の授業を行う出前授業の実施回数を増やすことや、子供たちが参加するプログラミングコンテストの開催を計画しているところである。

今後とも地域の発展に繋がる人材の育成に尽力していきたいと考える。

◇ 岡会長

続いては、「データサイエンスプラン」として専門講座を行われている放送大学山口学習センターの岡村所長に、当プランの概要を御紹介いただき、データサイエンス教育の今後の進め方や課題について、御説明いただきたい。

◇ 放送大学山口学習センター（岡村所長）

放送大学においては、この4月から、数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの講座を開講することとしており、「導入」、「基礎」、「心得」の3種類の講座で構成されている。講師陣は文部科学省の協力を得て、データサイエンス分野の第一線で活躍する様々な大学・企業から招くこととしており、企業における社内人材の育成に活用していただきたいと考える。

また、従前から「データサイエンスプラン」講座も実施しており、大学での単位化も目指しているため、高等教育機関におかれても是非ご活用いただければと考える。

◇ 岡会長

最後に、山口大学においては、平成30年度から全学1年生を対象としたデータサイエンスのリテラシー教育を実施しており、また、昨年9月には、県と連携し社会人を対象としたデータサイエンス講座を開講したところである。さらに本年3月には、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に2事業が採択されている。

折角の機会なので、本学の田中副学長より、本学が考える今後の大学連携や産学公連携の在り方等も含めて御紹介したいと思う。

◇ 山口大学（田中副学長）

本学においては、情報・データ科学教育センターが中心となってデータサイエンス教育を推進しており、共通教育「データ科学と社会Ⅰ・Ⅱ」は1年生の全学必修とし、2年生以降は専門教育として各学部の専門性に応じた教育を実施することとしており、学部ごとにデータサイエンス教育レベルの1から4を設定している。

また、今年度、県と連携して、リテラシーコースとマスター講座から構成される「社会人データサイエンス講座」を開講しており、マスター講座は、今年度、統計学を終了し、来年度前半でAI技術・機械学習を実施することとしている。この講座には本学の学生も授業に参加しており、互いに刺激し合っている。

この度、大学リーグやまぐちにおいて、データサイエンス教育に係るワーキンググループが設置されるとの話があったが、各大学の特徴に応じて必要

とされる教育レベルが異なることも考えられるので、その点も議論しながら、プログラム開発などを進めていくことができればと考える。

今回はデータサイエンス教育が中心だが、このことを契機として、今後は、各大学が有している課題を出し合いながら、大学同士の連携を少しずつでも進めていければと考える。

そのために、大学は研究シーズ、行政は政策課題、産業界は企業ニーズなどをお互いが出し合って、プラットフォームを機能させていくことが重要であると考える。

◇ 岡会長

やまぐち産業振興財団からは、デジタル人材に対する県内企業の人材ニーズについて御説明をいただき、各大学の取組状況についても御紹介いただいた。

コロナ禍による急速なデジタル化への対応はもとより、地方創生に向けた産業力の強化や若者の県内定着等においても、デジタル人材の育成・確保は喫緊の課題であり、産学公が連携して早急に取り組を進める必要がある。

本日いただいた御意見等を踏まえながら、新たに設置するワーキンググループを中心に、データサイエンス教育における大学連携の在り方や、産学公での連携方策についても、積極的に議論していただきたいと思う。

また、経済団体、支援機関の皆様におかれても、ワーキンググループの取組に対し、様々な点から御協力をいただくようお願いする。

4 その他（報告事項）

◇ 山口学芸大学・山口芸術短期大学（三池学長）

デザインコンペ2020の実施状況について

◇ 山口大学（岡会長）

COCプラス事業の最終評価結果について